

子どもの健全育成と、SDGsの目標のうち『貧困をなくそう』『すべての人に健康と福祉を』『質の高い教育をみんなに』の実現に資する活動への支援

## 「高知大道芸フェス2024」事業

### 大道芸のパフォーマンスを通じて、 商店街の活性化を図り、児童らとの交流の場を作る

高知市中心商店街で大道芸人のパフォーマンスを披露することで、街の賑わいを創出し、街の魅力を県内外に発信することを目的に実施されている「高知大道芸フェス」。7回目の開催となった2024年度は、子どもの健全育成の一環として、フェス出演者による地元小学校での特別パフォーマンスを行った。

#### 大道芸の楽しさを市民みんなで分かち合い、 街の活性化を図る「高知大道芸フェス」開催

大道芸は世代や性別、国籍を問わず、多くの人が楽しめるエンターテインメントとして人気がある。大掛かりな設備がなくとも、パフォーマーと観客がいれば、そこがたちまち立派なステージとなる。そうした大道芸の楽しさを多くの市民と分かち合いたい、そしてそれが高知の街の元気につながればとの思いから、2017年に産声をあげたのが「高知大道芸フェス」である。

毎回、国内外で活躍する大道芸人を招き、観客にトップレベルのパフォーマンスを生で楽しんでもらうことで、高知市中心部の活性化にもつながっている。

7回目の開催となった2024年度の「高知大道芸フェス」は、10月5日～6日の2日間、高知市内の商店街7ヵ所（大橋通

商店街、おびさんロード帯屋町公園、中央公園、ひろめ市場、大丸本館北、京町商店街、はりまや橋商店街）で開催され、出演した15組のプロの大道芸人のパフォーマンスを会場に詰めかけた約2万人の観客が楽しんだ。

また、開催前日の10月4日には、フェスのPRも兼ね、出演パフォーマーの一人、Performer SYO!さんが高知市立はりまや橋小を訪れ、約500名の全校児童を前に体育館で約1時間の特別パフォーマンスを披露した。パフォーマンスに先生を巻き込んで一緒に芸を作り上げ、子どもたちから大喝采を浴びた。SYO!さんは大道芸世界大会でチャンピオンにもなった実力者で、ジャグリングや中国ゴマ、けん玉、ポールパフォーマンスなどの高度な技に、子どもたちは興奮して大歓声をあげていた。なお、この訪問事業を含め、同フェスにはPOSCと高知県遊技業協同組合からの助成が活用された。



高知市内の商店街7ヵ所で開催した「高知大道芸フェス」



市内の小学校に訪問し大道芸を披露

#### 助成団体:高知大道芸フェス実行委員会



#### プロの演者のパフォーマンスに生で触れられる貴重な機会となりました

各方面から好評の声をいただきました。来年も出演したいというパフォーマーの声も多く、7回目の開催で認知度や人気も定着してきたと感じています。今後も継続させるためには資金不足の解消が不可欠であるため、尽力していきたいと思っております。

高知大道芸フェス実行委員会  
実行委員長 広末 幸彦さん

子どもの健全育成と、SDGsの目標のうち『貧困をなくそう』『すべての人に健康と福祉を』『質の高い教育をみんなに』の実現に資する活動への支援

## 「不登校について知り・考え・行動する保護者連帯支援活動」事業

### 子どもの不登校に苦慮する保護者の不安を和らげるために 親子間のコミュニケーションを学ぶワークショップを開催

全国的に増える一方の小中学生の不登校問題は、家庭、学校、地域が連携して取り組まなければならない問題である。不登校による児童・生徒への悪影響を少しでも減らし、保護者の不安を和らげるために、北海道北見市のNPO法人が、ワークショップによる学びを通して不登校問題へ連帯して対応するための素地づくりを行った。

#### 不登校や休みがちな児童・生徒の保護者を 支援するためにワークショップを開催

「北見エヌビーオーサポートセンター」はNPO中間支援センターとして、20年以上にわたり、様々なNPO法人や市民活動への支援を中心に活動してきた。近年は子育て事業を行うNPOと連携し、子どもの貧困対策の一環として子ども家庭庁を中心に進められている「こどもの未来応援国民運動」にも取り組んでいる。フリースクールを運営する団体と意見交換する機会も増えており、小中学生を中心とした子どもの不登校に悩む家庭が増えている一方で、相談する場が少ないという現状があることがわかった。そこで民間でできることを早急に行う必要があるとの考えから、コミュニケーション研修の実績が豊富な講師を招きワークショップ形式の「親子コミュニケーション」講座を開催する

ことにした。

北見市と美幌町で行った講座は、2会場とも、前半3回は基礎講座として「親タイプ×子タイプ性格診断」「実例を紹介 しゃべり場学習会」「子どもへの対応スキルを身につけよう」をテーマに、子どもとのコミュニケーションスキルを中心に学び、後半2回は「話してスッキリお悩み解決」「コミュニケーションのコツ」をテーマに、自分自身の意識改革を促す内容で行った。計10回の講座に延べ95名の参加者があった。

本事業の実施により、当団体では保護者の不登校に対する不安を和らげ、子どもに合った教育環境についての理解を深め、同じような悩みをもった保護者の連帯の輪と相談のネットワークづくりを行うという当初の目的が達成できたと分析している。



「親子コミュニケーション」講座の開催を告知するチラシ



コミュニケーション研修の実績が豊富な講師によるワークショップを実施

#### 助成団体:特定非営利活動法人 北見NPOサポートセンター

<https://kitami-npo-support-center.com/>



#### 助成金によって不登校保護者連帯活動を推進できたことに感謝いたします

全国的に増える一方の子どもの不登校問題への対応は、少子化が急速に進むなか、未来の担い手にかかわる、地域にとっても大変重要な課題となってきています。その解決には、家庭、学校、地域の連携が不可欠ですが、今回の活動はその一助になったものと思っております。

特定非営利活動法人 北見エヌビーオーサポートセンター  
理事長 谷井 貞夫さん